

# 学習・教育到達目標の評価用ルーブリック

JABEE 認定基準で求められる知識・能力項目 (a)～(i) の評価用に  
ローカライズした VALUE ルーブリック

VALUE ルーブリック和訳の引用先 : [http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/kiyou/data/kiyou18/07\\_matsushita.pdf](http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/kiyou/data/kiyou18/07_matsushita.pdf)  
京都大学高等教育研究第18号 (2012) pp. 75-114、松下佳代 (京都大学高等教育研究開発推進センター)、「パフォーマンス評価による学習の質の評価」

JABEE 認定基準で求められる知識・能力項目 (a)～(i) (VALUE ルーブリックの対応項目①～⑮)		ページ
(a) 地球的視点	(⑫ 異文化知識・能力)	3
(b) 倫理	(⑬ 倫理的推論)	4
(b) 社会・環境責任 (技術が社会・自然に及ぼす影響の理解)		5
(c) 数学、基礎科学 (d) 専門知識		6
(e) デザイン能力 (情報リテラシー)	(⑧ 情報リテラシー)	7
(e) デザイン能力 (創造的思考)	(③ 創造的思考)	8
(e) デザイン能力 (問題解決)	(⑩ 問題解決)	9
(f) コミュニケーション能力 (文章記述)	(④ 文章コミュニケーション)	10
(f) コミュニケーション能力 (文章読解)	(⑥ 読解)	11
(f) コミュニケーション能力 (口頭)	(⑤ 口頭コミュニケーション)	12
(f) コミュニケーション能力 (量的)	(⑦ 量的コミュニケーション)	13
(f) コミュニケーション能力 (外国語)		14
(g) 自主的・継続学習能力	(⑭ 生涯学習の基礎とスキル)	18
(h) プロジェクト・マネジメント能力		19
(i) チーム活動能力 (チームワーク)	(⑨ チームワーク)	20
(i) チーム活動能力 (多様性、多専門性への対応)		21

ver. 2015. 3/23

東京電機大学

工藤一彦

## 本ルーブリックの目的と性格

本書は、下記の3種類のルーブリックの作成支援を目的として、学習・教育目標に一般的に含まれる汎用的能力（generic skill）に関するルーブリックを提示する物である。

- (1) **カリキュラムルーブリック**（本学の各学科のカリキュラムの学習・教育目標（ディプロマポリシー）に含まれる汎用的能力を評価）、
- (2) **科目ルーブリック**（各科目の学習・教育目標に含まれる汎用的能力の達成度を評価）、
- (3) **課題ルーブリック**（学生が与えられた課題を達成する中で、身に付けることが期待されている汎用的能力の達成度を評価）

各学科のカリキュラム、科目、課題の学習・教育目標は、基本的には JABEE 認定基準 で求められる知識・能力項目 (a)～(i)\* に対応付けできるので、**本ルーブリックは、この JABEE 認定基準で求められる知識・能力項目 (a)～(i) の達成度の個別評価用として作成した。**

ここでは、知識・能力項目 (a)～(i) のそれぞれに主として対応している **VALUE** ルーブリックの項目①～⑮の和訳（下記文献参照）の内容をわかりやすく書き直して、JABEE 認定基準で求められる知識・能力項目 (a)～(i) の達成度評価用ルーブリックとした。対応する **VALUE** ルーブリックが存在しない学習・教育到達目標に対しては、他のルーブリックを参照するか、独自に作成した。

なお、**VALUE** ルーブリックの項目 ①探求と分析、②批判的思考、⑩市民参加、⑮統合的学習に関しては、技術者の活動を評価する場合には、③創造的思考、⑩問題解決、⑭生涯学習の基礎とスキル、等の項目で評価可能であるので、今回は除外した。

VALUE ルーブリックの解説、和訳の引用先：[http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/kiyou/data/kiyou18/07\\_matsushita.pdf](http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/kiyou/data/kiyou18/07_matsushita.pdf)  
京都大学高等教育研究第18号（2012）pp. 75-114 ；松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター）、「パフォーマンス評価による学習の質の評価」

### \*：JABEE認定基準で求められる知識・能力項目 (a)～(i)

JABEEの認定基準1では、プログラムで育成する知識・能力の目標として、「プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身に付けておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の (a)～(i) の各内容を具体化した物であり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。」とされている。ここで、学習・教育到達目標に含めることが求められている知識・能力の項目 (a)～(i) は下記の通りである。

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
- (c) 数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力
- (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力
- (g) 自主的、継続的に学習する能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

(a) 地球的視点 (12) 異文化知識・能力

下記の知識、スキルは、地球的視点で異文化を多面的に考え、異文化交流を実施するのに必要なものである。

地球的視点、異文化知識・能力、異文化交流、グローバル人材育成、などを目的の一つとする科目では、学習・教育到達目標として基本的にはこれらの知識・スキルを教育・育成する必要がある。

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
<p><b>知識(自分の思考・行動様式の自覚)</b> 異文化と適切に接するために、<u>自分の持つ文化的規則や偏見を自覚している。</u></p> <p><b>文化的規則や偏見</b> ある社会に属していると感じるために個人が所有する、その社会に属している人々が共有する価値に基づいた行動規範</p>	<p>自分の文化的規則や偏見について、それらが<u>どのような経験によって形づくられ、また、それらがどのようなものであるか認識している。</u> 異文化に接したとき、<u>どのように対応すればよいか、をよく自覚しており、そのために自分の文化的規則や偏見に基づいた自己の従来の考え方・行動様式を変化させている。</u></p>	<p>自分の文化的規則や偏見についてそれが<u>どのようなものであるかを認識している。</u> 異文化に接したとき、自分の文化的規則や偏見とは異なる、世界の多様性の認識に基づいた<u>新たな視点があることを認識している。</u></p>	<p>自分が文化的規則や偏見を持っていることを認識している。 異文化に接したとき、自分の文化の中で共有されている規則を強く好み、<u>異文化の他者に自分と同じ文化的規則を守ることを求める。</u></p>	<p>自分の文化的規則や偏見について(自分の属する文化的グループで共有されていることでも)<u>最小限のことしか自覚してない。</u> 異文化に接したとき、<u>文化的差異を識別し、不快に感じる。</u></p>
<p><b>知識(多様な文化・世界観の理解)</b> 異文化交流に活かすため、<u>文化的な世界観の枠組みについての知識を保有し、異文化との差異を理解している。</u></p>	<p>歴史、価値観、政治、コミュニケーションスタイル、経済、あるいは信条とその実践に関し、自分と異なる文化の成員が重要と考える要素が、多様で複雑であることについて、<u>洗練された理解(異文化交流を実践するのに有効な理解)</u>を示している。</p>	<p>歴史、価値観、政治、コミュニケーションスタイル、経済、あるいは信条とその実践に関し、自分と異なる文化の成員が重要と考える要素が、多様で複雑であることについて、<u>十分な理解(差異の原因まで含む知識として十分理解している)</u>を示している。</p>	<p>歴史、価値観、政治、コミュニケーションスタイル、経済、あるいは信条や実践に関し、自分と異なる文化の成員が重要と考える要素が、多様で複雑であることについて、<u>部分的な理解(差異の原因を含む知識として部分的に理解している)</u>を示している。</p>	<p>歴史、価値観、政治、コミュニケーションスタイル、経済、あるいは信条や実践に関し、自分と異なる文化の成員が重要と考える要素が、多様で複雑であることについて、<u>表面的に気づいている(外に見える差異を認知している)。</u></p>
<p><b>異文化に共感できるスキル</b> 異文化を自分の世界観とは別の世界観で認識し、これにより異文化に理解・共感を示す。</p>	<p>自身の世界観、およびこれとは異なる2つ以上の世界観の見方から、<u>異文化経験を解釈するとともに、異なる文化を持つグループの人々の感情を認識することで、これらの人々を支援できる能力を示している。</u></p>	<p>自分の世界観とは異なる2つ以上の世界観の知的・感情的側面を認識できるとともに、場合によって<u>2つ以上の世界観を用いて異文化と係わることができる。</u></p>	<p>他の文化に属する人々の世界観(見方や考え方)の基となる構成要素(宗教、風土、歴史、社会・政治環境・・・)を特定しているが、あらゆる状況において、<u>自身の世界観で対応している。</u></p>	<p>異文化の人々の見方や考え方を<u>見てはいるが、自身の文化的世界観を通してそれを行っている。</u></p>

(b) 倫理 (⑬ 倫理的推論)

技術が社会に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
<b>倫理的自己意識</b> 中核的信念：人の倫理的行動・思考に、影響を及ぼす基本的な原理。何に重きを置いて行動しているか。育ってきた環境、宗教、文化、訓練などの影響がこれに反映し、人の行動様式を形作る。	自己の中核的信念（自己の倫理的立場）と由来（主として何の影響でその信念が形成されたか）について細部にわたって議論し、分析している。その議論は非常に深く、明快である。	自己の中核的信念とその由来について細部にわたって議論し、分析している。	自己の中核的信念とその由来の両方について述べている。	自己の中核的信念を言明するか、あるいはそうした信念の由来について明確に述べているが、双方を行うことはない。
<b>倫理的問題点の指摘と倫理的問題の構造の認識</b>	倫理的な問題が複雑で重層的な背景の中で提示された時に、その問題が倫理的に問題と見なされる原因となる複数の主要要素を認識できる。それとともに、それらの要素間の相互関係と、倫理的問題の構造を把握できる。	倫理的な問題が複雑で重層的な背景の中で提示された時に、その問題が倫理的に問題と見なされる原因となるいくつかの要素の認識や、それらの要素間の相互関係の把握が、ある程度できる。	基本的かつ明白な倫理的問題を認識でき、（不完全ながら）それを構成する要素の間の複雑さや相互関係を把握できる。	学生は基本的かつ明白な倫理的点問題を認識できるものの、それを構成する要素の複雑さや要素間の相互関係を把握できない。
<b>倫理的視点／概念の適用</b>	独立して、倫理的視点／概念を、倫理的問題に対して正確に適用でき、この適用がもたらす結果について十分に考慮できる。	独立して、倫理的視点／概念を、新たな倫理的問題に対して正確に適用できるものの、一般論としてであり、各適用例に固有の具体的な問題については考慮しない。	独立して、倫理的視点／概念を、新たな倫理的問題に対して適用できるが、その適用は不正確である。	支援を受けることで、倫理的視点や概念を簡単な倫理的問題に対して適用できる。

(b) 社会・環境責任（技術が社会・自然に及ぼす影響の理解）

工学的解決が地球/経済/環境/社会に及ぼす影響の理解

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
<p>技術が社会・自然環境に及ぼす影響の理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた問題の解決の過程で想定される、社会、健康、安全、法律、文化等の諸問題とそれに伴う責任を特定でき、またその文脈・背景に関する知識を使って、各問題の重要性を評価できる。</li> <li>技術が社会や自然環境に影響を及ぼすメカニズムや、持続可能な発展について深く理解しており、それらをもとに、与えられた問題の解決の結果が社会や環境に及ぼす影響を正確に特定できるとともに、できるだけ影響の少ない解決策を選定できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた問題の解決の過程で想定される、社会、健康、安全、法律、文化等の主要な諸問題とそれに伴う責任を特定できる。</li> <li>技術が社会や自然環境に影響を及ぼすメカニズムや、持続可能な発展について理解しており、それらをもとに、与えられた問題の解決の結果が社会や環境に及ぼす影響をほぼ特定できるとともに、影響の少ない解決策を選定できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた問題の解決の過程で想定される、社会、健康、安全、法律、文化等の諸問題とそれに伴う責任をいくつか特定できる。</li> <li>技術が社会や自然環境に影響を及ぼすメカニズムや、持続可能な発展についてある程度理解しており、それらをもとに、与えられた問題の解決の結果が社会や環境に及ぼす影響をいくつか特定でき、影響の少ないと思われる解決策を選定しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた問題の解決の過程で想定される、社会、健康、安全、法律、文化等の諸問題とそれに伴う責任をいくつか特定しているが不正確である。</li> <li>技術が社会や自然環境に影響を及ぼすメカニズムや、持続可能な発展について常識程度に理解しており、それらをもとに、与えられた問題の解決の結果が社会や環境に及ぼす影響をいくつか特定できるが、影響の少ない解決策の選定は難しい。</li> </ul>

(c) 数学、基礎科学

(d) 専門知識

数学、自然科学、当該分野の専門知識とそれらに応用する能力

- 数学、自然科学、当該分野の専門知識とそれらに応用する能力
- 現象解明・仮説証明のための実験を計画・実施し、得られたデータの解釈・分析をする能力
- 工学的問題解決に必要な技術、技能、各種 の新しい工学ツールを使える能力

これらの能力は基本的にはペーパーテストやレポートで評価可能ですので、基準項目(c)(d)の評価用ルーブリックは記載しません。

(e) デザイン能力 (⑧ 情報リテラシー)

種々の科学、技術、及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力を構成する能力・スキルの中で、問題解決に必要な情報を得るスキル。

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
必要とされる情報の検索範囲の決定	研究上の疑問や、必要とする情報が記載されている可能性の高い論文の範囲を効果的に定義している。 必要とされる情報の主要な概念・キーワードを効果的に決定できる。 検索したい情報は、概念と直接に関連付けられるものであるか、研究上の疑問に直接答えるものである。	研究上の疑問や、必要とする情報が記載されている可能性の高い論文の範囲を十分に定義している。 必要とされる情報の主要な概念・キーワードを決定できる。 検索したい情報は、概念と関連付けられるものであるか、研究上の疑問に答える物である。	研究上の疑問や、必要とする情報が記載されている可能性の高い論文の範囲が、不完全にしか限定されていない（部分的に欠けており、広すぎたり狭すぎたりしたままである）。 必要とされる情報の主要な概念・キーワードを決定できる。 検索したい情報は、部分的に概念と関連付けられるものであるか、研究上の疑問に答える物である。	研究上の疑問や、必要とする情報が記載されている可能性の高い論文の範囲を限定するのが困難。 必要とされる情報の主要な概念・キーワードを決定するのが困難。 検索したい情報は、概念と関連付けておらず、また研究上の疑問に答えるものでもない。
必要とされる情報へのアクセス	良くデザインされた検索法で、最も適切な情報ソースを効果的に使用して、情報にアクセスしている。	多様な検索法で、いくつかの関連する情報ソースを使用して情報にアクセスしている。検索を絞り込むための能力を示している。	単純な検索法を使用して情報にアクセスし、限られたソースや類似したソースから情報を検索している。	手当たり次第に情報にアクセスし、関連性や本質に欠けた情報を検索している。
情報とそのソースの批判的な評価	自己と他者の仮定を徹底的に分析し、どちらを選ぶかの見解を示す際には、各仮定がどのような背景を基としているかを慎重に評価している。	見解を示す際に、自己と他者の仮定や、いくつかの関連性のある背景を考慮している。	他者の見解の仮定のいくつかに疑問を呈している。見解を示す際に、重要ないくつかの関連性のある背景を考慮している。自分の見解と他人の見解がそれぞれ基礎としている仮定に対し、それぞれの理解度に差がある。	自分及び他人の見解がそれぞれ基礎としている仮定に気づきつつあることが見て取れる。主張を仮定とみなしているときもある。見解を示す際に、背景のいくつかを考慮し始めている。
具体的な目的を達成するための、情報の効果的な使用	情報検索における具体的な目的を完全に達成するために、ソースからの情報を、明解さと深さをもって構成し、統合し、必要な関係者に伝達している。	情報検索において意図した目的を達成するため、ソースからの情報を構成し、統合し、関係者に伝達している。	ソースからの情報を構成し、関係者に伝達することができている。 ただし、その情報はまだ、統合されておらず、情報検索で意図された目的は十分達成されていない。	ソースからの情報を関係者に伝えることができる。ただし、その情報は断片的であり、不適切に使用されている（その情報のもともとの背景とは異なった状況への間違った引用など）。その結果、情報検索で意図された目的は達成されていない。
情報への倫理的・法的なアクセスと使用	学生は、以下の情報利用法を全て正確に使用している（引用や出典の使用、言い換え・要約・引用の選択、もとの文脈にてらして正しいやり方で情報を使用すること、常識と帰属元の記述を必要とするアイデア [＝誰のアイデアかを記すべきアイデア] とを区別すること）。 また、公表された情報、内密な情報、および（もしくは）所有権のある情報の使用に関する倫理的・法的な制限について十分理解していることを示している。	学生は、以下の情報利用法のうちの3つを正確に使用している（引用や出典の使用、言い換え・要約・引用の選択、もとの文脈にてらして正しいやり方で情報を使用すること、常識と帰属元の記述を必要とするアイデア [＝誰のアイデアかを記すべきアイデア] とを区別すること）。 また、公表された情報、内密な情報、および（もしくは）所有権のある情報の使用に関する倫理的・法的な制限について十分理解していることを示している。	学生は、以下の情報利用法のうちの2つを正確に使用している（引用や出典の使用、言い換え・要約・引用の選択、もとの文脈にてらして正しいやり方で情報を使用すること、常識と帰属元の記述を必要とするアイデア [＝誰のアイデアかを記すべきアイデア] とを区別すること）。 また、公表された情報、内密な情報、および（もしくは）所有権のある情報の使用に関する倫理的・法的な制限について十分理解していることを示している。	学生は、以下の情報利用法のうちの1つを正確に使用している（引用や出典の使用、言い換え・要約・引用の選択、もとの文脈にてらして正しいやり方で情報を使用すること、常識と帰属元の記述を必要とするアイデア [＝誰のアイデアかを記すべきアイデア] とを区別すること）。 また、公表された情報、内密な情報、および（もしくは）所有権のある情報の使用に関する倫理的・法的な制限について十分理解していることを示している。

(e) デザイン能力 (③ 創造的思考)

種々の科学、技術、及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力を構成する能力・スキルの中で、問題解決に必要な創造的思考能力。

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
<b>リスクテキング</b> 社会的・経済的・政治的リスクなどの他に、課題をうまくやり遂げることに失敗して精神的ダメージを受けるリスク (例：課題が保有する限界をのりこえて進む、新しい材料と形式を導入する、論争的な話題に取り組む、一般的ではないアイデアや解決方法を主張する)を含むアイデアや解決方法を提唱している。	最終成果物となる課題に対して、未だ検証されておらず潜在的なリスクを含むような方向やアプローチを積極的に追求し、最後までやり遂げている。	最終成果物となる課題に対して、新しい方向やアプローチを取り入れている。	問題解決・デザインのために、課題が示す常識的な限界を超えない範囲で、新しい方向やアプローチを考えている。	問題解決・デザインのための方向やアプローチは、課題が示す常識的な限界内に、厳密に留まっている。
<b>問題解決計画設定の妥当性</b>	論理的で首尾一貫した計画を作るだけでなく、解決結果の重要性・影響を認識し、解決方法の選択理由をはっきり説明することができる。	問題解決のために、複数の選択肢から一つを選択し、論理的で首尾一貫した計画を作っている。	複数のアプローチを考慮し、問題解決のために総体的に受け容れられないアプローチを却下している。	問題解決のために、複数のアプローチを考えず、ただ一つのアプローチを考慮し、利用している。
<b>矛盾の受け入れ・止揚</b> 古いものを否定して新しいものを創出する際、古いものを全面的に捨てるのではなく、古いものが持っている内容のうち積極的な要素を新しくし、高いレベルで新しいものの中に保持する。	代替的な、多様な、あるいは相互に矛盾をはらんだ見方やアイデアを完全に統合している(選択したアイデア以外を切り捨てるのではなく、両者の良い部分をうまく取り入れて、一つの、両者よりさらに高い価値のものにする、など)。	代替的な、多様な、あるいは相互に矛盾をはらんだ見方やアイデアを、探索的方法で組み込んでいる(それぞれのアイデアの良い部分を試行錯誤的に組み合わせている)。	代替的な、多様な、あるいは相互に矛盾をはらんだ見方やアイデアのそれぞれの価値を認め、これらを、最終的に選択したアイデアにわずかに含めている。	代替的な、多様な、あるいは相互に矛盾をはらんだ見方やアイデアが存在することに軽く触れている。
<b>革新的な思考</b> アイデア・主張・問題点の指摘やその形式などの新奇性と独自性	新奇な、あるいは独創的なアイデア・問題点の指摘・形式・成果物、を創造し、それらの延長として新しい知識や境界を超える知識を創造している。	新奇な、あるいは独創的なアイデア・問題点の指摘・形式・成果物、を創造している。	新奇な、あるいは独創的なアイデア・問題点の指摘・形式・成果物、の創造を試みている。	利用できるさまざまなアイデアを、今までとは違った見方で見直している。



(e) デザイン能力 (⑩ 問題解決)

種々の科学、技術、及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力を構成する能力・スキルの中で、問題解決のために必要なプロセスをきちんと実施できる能力

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
<b>問題の定義</b> 問題を特定・整理・分析し、制約条件も含めて、解決すべき問題の構造を定義できる	複合的な状況の中から解決を要する問題を明快に特定し、これを整理・分析（構成する主要要素を抜けなく認識し、それらの相互関係と論理構造を把握）し、関連ある全ての要因（コスト、人的・物的・経済的資源、関係者の考え、等の制約や、結果に影響を与える知識）を根拠に用いて、明確で洞察に富んだ問題の定義を構築する能力を示している。	複合的な状況の中から解決を要する問題を概略特定し、これをある程度整理・分析（構成するいくつかの要素を認識し、それらの相互関係と論理構造をある程度把握）し、関連ある大半の要因（制約条件）を根拠に用いて、問題の定義を構築する能力を示しており、その問題定義も適切である。	解決を要する問題の基本的・明白な部分を特定し、これを不完全ながら整理・分析（構成するいくつかの要素を認識し、それらの相互関係と論理構造を不完全ながら把握）し、関連ある大半の要因（制約条件）を根拠に用いて、問題の定義を構築する能力を示しているが、問題定義は表面的である。	解決を要する問題の基本的・明白な部分は認識できるものの、その問題を構成する要素の認識や、それらの相互関係の把握ができない。したがって、問題の定義や関連する要因（制約条件）の同定が限定的である。
(e) デザイン能力 (⑧情報リテラシー) 問題解決に必要な情報を得るスキル	p21参照			
(e) デザイン能力 (③創造的思考) 問題解決案出に必要な創造的思考力	p22参照			
<b>解決法／仮説の提案</b>	問題についての深い理解力を示す一つ以上の解決法／仮説を提案している。解決法／仮説は、関連要因だけでなく、問題の倫理的・論理的・文化的側面のすべてについても配慮している。	問題についての理解力を示す一つ以上の解決法／仮説を提案している。解決法／仮説は、関連要因だけでなく問題の倫理的・論理的・文化的次元の一つについても配慮している。	今問題になっている特定の関連要因を扱うために個別にデザインされた解決法／仮説ではなく、既製の一つの解決法／仮説を提案している。	提案された解決法／仮説は、問題の定義に漠然と、あるいは間接的に対処しているだけなので、その有効性の評価は困難である。
<b>採りうる複数の解決法から、実施すべき解決法を選定するための評価</b>	提案された解決法に対する評価は深く洗練されている（例えば、徹底していて洞察に満ちた説明を含む）。またその評価には以下の点を深く完全に含んでいる。 問題が起こった経緯を考える、論理／推論を吟味する、解決法の実行可能性を検討する、解決法の影響・効果を比較して重み付けする	提案された解決法に対する評価は適切である（例えば、徹底した説明を含む）。またその評価には以下の点を含んでいる。 問題が起こった経緯を考える、論理／推論を吟味する、解決法の実行可能性を検討する、解決法の影響・効果を比較して重み付けする	提案された解決法に対する評価は簡素である（例えば、深さに欠けた説明）。またその評価には以下の点を含んでいる。 問題が起こった経緯を考える、論理／推論を吟味する、解決法の実行可能性を検討する、解決法の影響・効果を比較して重み付けする	提案された解決法に対する評価は表面的である（例えば、おおざっぱで浅い説明）。またその評価には以下の点を含んでいる。 問題が起こった経緯を考える、論理／推論を吟味する、解決法の実行可能性を検討する、解決法の影響・効果を比較して重み付けする
(h) プロジェクトマネジメント能力 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力、計画の進捗を把握し、必要に応じて計画を修正する能力	p33参照			
<b>結果の評価</b>	今回の問題解決の中で、次回以降の仕事との関連で良く考えておく必要がある問題点を、もれなく具体的に考察して選び出し、これらについて吟味している。	今回の問題解決の中で、次回以降の仕事との関連で良く考えておく必要がある問題点を、ある程度考えて選び出し、これらについて吟味している。	今回の問題解決の中で、次回以降の仕事との関連でよく考えておく必要がある問題点について、もしあれば少し考えて選びだし、これらについて吟味している。	次回以降の仕事への必要性についてはまったく考慮せず、これとは無関係な問題意識で、今回の結果を表面的に吟味している。

(f) コミュニケーション能力 (文章記述) (④ 文章コミュニケーション)

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
<b>文章作成の必要性と目的の理解</b> 読者・目的や、課題をとりまく状況の考慮を含む	その文章の文脈(背景)・読者・目的について完璧な理解を示している。 またその理解により、その文章に必要なとされる全ての要素を考慮した、与えられた課題に答える文章となっている。	その文章の文脈(背景)・読者・目的について十分な理解を示している。 またその理解により、文章作成に際して、読者・目的・文脈(背景)を明確に考慮していることを示している。	その文章の文脈(背景)・読者・目的について気付いている。 そのため、与えられた文章作成の仕事において、読者がどの程度理解できるか、またどの程度の事前知識を持っているか、などについて気づき始めていることが示されている。	例えば、教員あるいは自分を読者と想定して書く、というように、その文章作成の文脈(背景)・読者・目的に対し最低限の注意しか示していない。
<b>文章の目的に応じた内容(素材)とその展開</b>	筆者の課題についての理解の深さと、課題について完璧に解決していることを示すような、適切な、課題に関連した、説得力に富む内容(素材)を用いて、文章全体をまとめている。	当該専門分野の中で課題の解決法に関するアイデアを追求するために、適切な、課題に関連した、説得力に富む内容(素材)を用い、文章全体をまとめている。	文章の大半の部分で、いくつかの課題の解決法に関するアイデアを展開するために、適切な、課題に関連した内容(素材)を用いている。	作品の何カ所かで、課題の解決法に関する単純なアイデアを展開するために、適切で課題に関連のある内容を用いている。
<b>ジャンルと学問分野の文章形態に関する約束事</b> 特定の形式や、学問分野の文章作成の公式・非公式のきまり	特定の学問分野や文章作成課題に関連する <b>広範な</b> 約束事(構成、内容、プレゼン方式、書式、文体選択を含む)に対し、細かい注意を向けうまく遂行している。	特定の学問分野や文章作成課題に関連する <b>重要な</b> 約束事(構成、内容、プレゼン方式、文体選択を含む)を一貫性をもって使用している。	特定の学問分野や文章作成課題にふさわしいものとして、期待されることがら(基本的構成、内容、プレゼン方式、など)に従っている。	基本的構成や提示のしかたについて一貫した体系を使おうとしている。
<b>資料(ソース)と根拠(エビデンス)</b>	考えを文章中で展開するために、質が高く、信頼でき、関連性のある資料を根拠としてうまく使いこなしている。	考えを裏づけるために、信頼でき、関連性のある資料を根拠として一貫して使っている。	考えを裏づけるために、信頼できる(もしくは関連性がある)資料を使おうとしている。	アイデアを裏づけるために、資料を使おうとしている。
<b>構文と用語法</b>	ほぼ誤りのない、優雅な文章を用いて、明確で流暢で巧みに読者に意味を伝達できる。	あまり誤りがなく、直截的な文章を用いて、ほとんどの場合、読者に意味を伝達できる。	文章に数か所誤りを含むが、ほとんどの場合、読者に意味を伝達できる。	用語法に誤りがあるために、意味の伝達が妨げられている。

(f) コミュニケーション能力（文章読解）（⑥ 読解）

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
内容理解	その文章が一般的に示している意味、教員がその文章で学生に読み取ってもらいたい意味、もしくは著者がその文章で明確に示しているメッセージ、などを越えて、その文章が裏で意味している可能性のあるものを認識している（例えば、より広範な問題を認識したり、著者のメッセージや説明に異議を唱えたりする）	文章自体や、その文章の背景に関する一般的な知識、および（もしくは）、その文章の内容に影響を与える著者の背景情報に関する具体的な知識を使用して、著者の主張や態度について、より複雑な推論を行っている。	文章の特徴（例えば、文と文節の構造や論調）を考慮に入れながら、著者の主張の背景や目的について、基礎的な推論を行っている。	語彙を適切に理解することで、文章が伝えようとしている情報を別の言葉に言い換えたり、要約したりすることができる。
内容理解のための文章構造の分析	個々の考えや、ひとまとまりの文章構造や、他の文章上の特徴、などを文章内で相互に関連づけている構造を分析・評価している。これによって、その分野での知識や見識を得ている。	個々の <u>考えや、ひとまとまりの文章構造の間の関係を同定している。</u> これにより、文章の <u>全体的な意味を高度に理解している。</u>	文節や形式的な特徴を持ったひとまとまりの文章などの間の <u>関係を認識している。</u> これにより、文章の <u>全体的な意味を基本的に理解している。</u>	与えられた課題で提示された問いに答える必要性から、文章の <u>諸側面（例えば、内容、構造、観念などの間の関係など）を同定している。</u>

(f) コミュニケーション能力 (口頭) (⑤ 口頭コミュニケーション)

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
論理的な文章構造	構造的なパターン (導入、本文、結論、とそれらの間のつながり) が明確で、一貫しており、上手く、プレゼンテーションすべき内容が互いに関連づけられている。	プレゼンテーションの中で、構造的なパターン (導入、本文、結論、とそれらの間のつながり) が明確で、一貫している。	プレゼンテーションの中に構造的なパターン (導入、本文、結論、とそれらの間のつながり) が時々みられる。	構造的なパターン (導入、本文、結論、とそれらの間のつながり) がプレゼンテーションの中にみられない。
効果的な言葉の使用	言葉の選び方が、想像力に富んでおり、印象的で、説得力があり、プレゼンテーションの効果を増している。 聴衆に適した言葉を選んでいる。	良く考えられた言葉を選んでおり、プレゼンテーションの有効性をほぼ支えている。 聴衆に適した言葉を選んでいる。	言葉の選び方が、平凡で陳腐であり、プレゼンテーションの有効性を、部分的にのみ支えている。 聴衆に適した言葉を選んでいる。	言葉を選ぶ方針が明確でなく、プレゼンテーションの有効性は最小限にとどまっている。 聴衆に適した言葉を選んでいない。
説得的な話し方	話術 (姿勢、ジェスチャー、アイコンタクト、声の表現) が、プレゼンテーションを説得的にしており、話者が、洗練され自信のあるようにみえる。	話術 (姿勢、ジェスチャー、アイコンタクト、声の表現) が、プレゼンテーションを興味深くしており、話者が落ち着いてみえる。	話術 (姿勢、ジェスチャー、アイコンタクト、声の表現) が、プレゼンテーションを理解可能にしているが、話者が自信なさげである。	話術 (姿勢、ジェスチャー、アイコンタクト、声の表現) が、プレゼンテーションの理解を妨げており、話者が落ち着きなくみえる。
話の信憑性を裏付ける資料	多様なサポート資料 (説明、例、図解、統計、比喩、関係ある権威筋からの引用) が、 <u>プレゼンテーションの重要な核をなす情報や分析の適切な参考資料を構成</u> しているとともに、そのトピックに対する発表者の信憑性や権威を確立している。(参考資料が、プレゼンで言いたいことの核をなす部分に対してエビデンスとして使われている)	多様なサポート資料 (説明、例、図解、統計、比喩、関係ある権威筋からの引用) が、 <u>プレゼンテーションを概略支えている情報や分析の適切な参考資料を構成</u> しているとともに、そのトピックに対する発表者の信憑性や権威を確立している。(参考資料が、プレゼンで主として言いたいことの大部分に対してエビデンスとして使われている)	多様なサポート資料 (説明、例、図解、統計、比喩、関係ある権威筋からの引用) が、 <u>プレゼンテーションを部分的に支えている情報や分析の適切な参考資料を構成</u> しているとともに、そのトピックに対する発表者の信憑性や権威を確立している。(参考資料が、プレゼンで主として言いたいことのエビデンスとして部分的に使われている)	不十分ではあるが、多様なサポート資料 (説明、例、図解、統計、比喩、関係ある権威筋からの引用) が、 <u>プレゼンテーションをわずかに支えている情報や分析の参考資料を構成</u> しているとともに、そのトピックに対する発表者の信憑性や権威を確立している。(参考資料が、プレゼンで主として言いたいことのエビデンスとして使われてない)
明確で説得力ある中心的メッセージ	中心的なメッセージが <u>説得力をもっている</u> (正確に述べられ、適切に繰り返され、記憶に残るようなものであり、エビデンスによって強力にささげられている)。	中心的なメッセージが <u>明確</u> であり、サポート資料と一貫性がある。	中心的なメッセージは基本的に <u>理解可能</u> であるが、繰り返しがなく、記憶に残るものではない。	中心的なメッセージは <u>推測</u> できるものの、プレゼンテーションにおいて明確には述べられていない。

(f) コミュニケーション能力 (量的) (⑦ 量的コミュニケーション)

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
<b>数学的表現の解釈</b> 数学的形式 (例：方程式、グラフ、図、表、言葉) で表された情報の意味するところを理解し説明する能力	数学的形式で表された情報に関して正確な説明を提供できており、さらにそうした情報を土台として適切な推論をしている。(例えば、グラフで示されたトレンドを正確に説明でき、そのデータが示す未来の出来事に関して合理的な予測を立てることができている)	数学的形式で表された情報に関して正確な説明を提供している。(例えば、グラフで示されたトレンドを正確に説明できている)	数学的形式で表された情報に関してある程度正確に説明している。しかし、ときどき計算や単位などに関連して小さいミスをしている。(例えば、グラフで示されたトレンドを正確に説明できているのだが、トレンドの勾配の値について計算ミスをしている)	数学的形式で表された情報に関して説明を試みているが、情報が意味していることに関して間違った結論を導いている。(例えば、グラフで示されたトレンドの説明において、勾配の正負を間違えるなど、トレンドの本質的性質を間違えて解釈している)
<b>数学的に表現する</b> 情報を様々な数学的形式に変換する能力 (例：方程式、グラフ、図、表、言葉)	自分の主張を説明するのに適切な情報を選び、その情報に関する理解がさらに進んだ、あるいはさらに深いものになるように、実態を見抜くことができるような数学的表現に巧みに変換している。	自分の主張を説明するのに適切な情報を選び、これを適切で望ましい数学的表現に完全に変換している。	情報を数学的表現に変換しているが、その結果は部分的にしか適切あるいは正確でない。	情報を数学的表現に変換しているが、その結果は不適切あるいは不正確である。
<b>量的表現を用いたコミュニケーション</b> 議論や作品の目的を立証し裏付けるため、これらを量的なエビデンスを用いて表現している。(どんなエビデンスが使われているのか、エビデンスの形式がどのように設定され、提示され、文脈化されているのか)	議論や業務の中で、自分の主張を相手に伝えるために、量的な情報を使用している。 その際、量的な情報は効果的な形式で示されており、その中では一貫して高いクオリティで詳細に説明している。	議論や業務の中で、自分の主張を相手に伝えるために、量的な情報を使用している。 しかしデータは完全に効果的な形式では示されていない、あるいは説明のいくつかの部分の質にムラがある。	量的な情報を使用しているが、議論や業務の中で、自分の主張を効果的に相手に伝えることには結びついていない。	議論や業務の中で、自分の主張を効果的に相手に伝えるために、適切な量的エビデンスの提示が必要との認識はあるが、充分かつ明確な数値的サポートが提供されていない。(「たくさん」「少しの」「ますます増えて」「小さな」など、定性的に量を表す言葉などを使っている)

(f) コミュニケーション能力 (外国語)

英語などの外国語を用いて、情報や意見をやりとりできる。

次頁以降の CEFR-J (セファールJ) の Can-Do リストを用いて語学の達成度を評価できるので、基準(f)の能力評価用ルーブリックは記載しません。

ちなみに、CEFR-J (セファールJ) の Can-Do リストでは、大卒は少なくとも CEFR B1 以上が目標となる。

CEFR(Common European Framework for Reference of Languages:ヨーロッパ言語共通参照枠) は、ある言語について、「言葉を使ってなにができるか (CAN-DO リスト)」を下記の 6 段階に分けて具体的に細かく記述した「参照枠」である。

- C2:** 聞いたり読んだりした、ほぼすべてのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
- C1:** いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
- B2:** 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやりとりができるくらい流暢でかつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
- B1:** 仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心がある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
- A2:** ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文章やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
- A1:** 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問したり、答えたりすることができる。もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやりとりをすることができる。 (<http://globe.asahi.com/feature/side/2013102900001.html>)

CEFRと他の英語検定のレベル比較の目安

CEFR	A1	A2	B1	B2	C1	C2
TOEIC L,R	120<	225<	550<	785<	945<	
TOEIC S,W	80<	160<	240<	310<	400<	
英検	3 級以下	準 2 級	2 級	準 1 級	1 級	

[http://www.ets.org/s/toEIC/pdf/toEIC\\_cef\\_mapping\\_flyer.pdf](http://www.ets.org/s/toEIC/pdf/toEIC_cef_mapping_flyer.pdf)

	レベル	PreA1	A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
理	聞くこと	ゆっくりはっきりと話されれば、日常の身近な単語を聞きとることができる。	当人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」「座れ」「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。	趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。	ゆっくりはっきりと放送されれば、公共の乗り物や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。	スポーツ・料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。	外国の行事や習慣などに関する説明の概要を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	自然な速さの録音や放送(天気予報や空港のアナウンスなど)を聞いて、自分に関心のある、具体的な情報の大部分を聞き取ることができる。	自然な速さの標準的な英語で話されていれば、テレビ番組や映画の母語話者同士の会話の要点を理解できる。	非母語話者への配慮としての言語的な調整がなされていなくても、母語話者同士の多様な会話の流れ(テレビ、映画など)についていくことができる。
		英語の文字が発音されるのを聞いて、どの文字かわかる。	日常生活に必要な重要な情報(数字、品物の値段、日付、曜日など)を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞きとることができる。	日常生活の身近なトピックについての話を、ゆっくりはっきりと話されれば、場所や時間等の具体的な情報を聞きとることができる。	(買い物や外食などで)簡単な用をたすのに必要な指示や説明を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	学校の宿題、旅行の日程などの明確で具体的な事実を、はっきりとなじみのある発音で指示されれば、要点を理解することができる。	視覚補助のある作業(料理、工作など)の指示を、ゆっくりはっきりと話されれば、聞いて理解することができる。	自分の周りで話されている少し長めの議論でも、はっきりとなじみのある発音であれば、その要点を理解することができる。	はっきりとなじみのある発音で話されれば、身近なトピックの短いラジオニュースなどを聞いて、要点を理解することができる。	トピックが身近であれば、長い話や複雑な議論の流れを理解することができる。	自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、現代社会や専門分野のトピックについて、話者の意図を理解することができる。
解	読むこと	口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本の中の単語を見つけることができる。	「駐車禁止」、「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。	簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探することができる。	学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。	インターネットや参考図書などを調べて、文章の構成を意図しながら、学業や仕事に関係ある情報を手に入れることができる。必要であれば時に辞書を用いて、図表と関連づけながら理解することができる。	現代の問題など一般的関心の高いトピックを扱った文章を、辞書を使わずに読み、複数の視点の相違点や共通点を比較しながら読むことができる。	記事やレポートなどのやや複雑な文章を一読し、文章の重要度を判断することができる。綿密な読みが必要と判断した場合は、読む速さや読み方を変えて、正確に読むことができる。
		ブロック体で書かれた大文字・小文字がわかる。	ファーストフード・レストランの、絵や写真がついたメニューを理解し、選ぶことができる。	身近な人からの携帯メールなどによる、旅の思い出などが書かれた非常に短い簡単な近況報告を理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた、挿絵のある短い物語を理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた短い物語や伝記などを理解することができる。	生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。	ゲームのやり方、申込書の記入のしかた、ものの組み立て方など、簡潔に書かれた手順を理解することができる。	平易な英語で書かれた長めの物語の筋を理解することができる。	難しい部分を読み返すことができれば、自分の専門分野の報告書・仕様書・操作マニュアルなどを、詳細に理解することができる。	自分の専門分野の論文や資料から、辞書を使わずに、必要な情報や論点を読み取ることができる。

レベル	PreA1	A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2	
話す	やりとり	基礎的な語句を使って、「助けて！」や「～が欲しい」などの自分の要求を伝えることができる。また、必要があれば、欲しいものを指さしながら自分の意思を伝えることができる。	なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。	基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができかできないかや色についてのやりとりなど)、において単純に回答することができる。	趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。	順序を表す表現であるfirst, then, nextなどのつなぎ言葉や「右に曲がって」や「まっすぐ行って」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。	簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を比較べたりすることができる。	身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。	病院や市役所といった場所において、詳細にまた自信を持って、問題を説明することができる。関連する詳細な情報を提供して、その結果として正しい処置を受けることができる。	ある程度なじみのあるトピックならば、新聞・インターネットで、読んだり、テレビで見たニュースの要点について議論することができる。	一般的な分野から、文化、学術などの、専門的な分野まで、幅広いトピックの会話に積極的に参加し、自分の考えを正確かつ流暢に表現することができる。
	話す	一般的な定型の日常の挨拶や季節の挨拶をしたり、そうした挨拶に応答したりすることができる。	家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、(必ずしも正確ではないが)なじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。	スポーツや食べ物などの好き嫌いなどのトピックに関して、はっきり話されれば、限られたレパートリーを使って、簡単な意見交換をすることができる。	基本的な語や言い回しを使って、人を誘ったり、誘いを受けることができる。	補助となる絵やものを用いて、基本的な情報を伝え、また、簡単な意見交換をすることができる。	予測できる日常的な状況(郵便局・駅・店など)ならば、さまざまな語や表現を用いてやり取りができる。	個人的に関心のあふ具体的なトピックについて、簡単な英語を多様に用いて、社交的な会話を続けることができる。	駅や店などの一般的な場所で、間違った切符の購入などといったサービスに関する誤りなどの問題を、自信を持って詳しく説明することができる。相手が協力的であれば、丁寧に依頼したり、お礼を言って、正しいものやサービスを受けることができる。	母語話者同士の議論に加われないこともあるが、自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても、議論できる。	幅広い慣用表現を使って、雑誌記事に対して意見を交換することができる。
発	こ	簡単な語や基礎的な句を用いて、自分についてのごく限られた情報(名前、年齢など)を伝えることができる。	基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報(家族や趣味など)を伝えることができる。	前もって発話することを留意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。	前もって発話することを留意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で意見を言うことができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関連のあるトピック(自分のこと、学校のこと、地域のことなど)について、短いスピーチをすることができる。	使える語句や表現を覚えて、自分の経験や夢、希望を順序だてて、話を広げながら、ある程度詳しく話ることができる。	短い読み物か短い新聞記事であれば、ある程度の流暢さをもって、自分の感想や考えを加えながら、あらかじめ要点を順序だてて伝えることができる。	ある視点に賛成または反対の理由や代替案などをあげて、事前に用意されたプレゼンテーションを聴衆の前で流暢に行うことができ、一連の質問にもある程度流暢に対応ができる。	要点とそれに関連する詳細の両方に焦点を当てながら、流暢にプレゼンテーションができ、また、あらかじめ用意されたテキストから自然にはなれて、聴衆が興味のある点に対応してプレゼンテーションの内容を調整し、そこでもかなり流暢に容易に表現できる。
	表	前もって話すことを留意した上で、基礎的な語句、定型表現を用いて、人前で実物などを見せながらその物を説明することができる。	基礎的な語句、定型表現を用いて、簡単な情報(時間や日時、場所など)を伝えることができる。	前もって発話することを留意した上で、日常生活の物事を、簡単な句を限られた構文を用い、簡単に描写することができる。	前もって発話することを留意した上で、日常生活に関する簡単な事実を、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で描写できる。	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な句や文を使って、身近なトピック(学校や地域など)について短い話をすることができる。	一連の簡単な語句や文を使って、意見や行動計画を、理由を挙げて短く述べることができる。	自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、聞き手を混乱させないように、馴染みのあるトピックや自分について話ることができる。	自分の関心事であれば、社会の状況(ただし自分の関心事)について、自分の意見を加えてある程度すらすらと発表し、聴衆から質問があれば相手に理解できるように答えることができる。	ディベートなどで、そのトピックが関心のあふ分野のものであれば、論拠を並べ自分の主張を明確に述べることができる。	ディベートなどで、社会問題や時事問題に関して、補助的観点や関連事例を詳細に加えながら、自分の視点を明確に展開することができ、話を続けることができる。



	レベル	PreA1	A1.1	A1.2	A1.3	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2
書くこと		アルファベットの大文字・小文字、単語のつづりをブロック体で書くことができる。	住所・氏名・職業などの項目がある表を埋めることができる。	簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。	自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。	日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。	身の回りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。	自分に直接関わりのある環境(学校、職場、地域など)での出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。	新聞記事や映画などについて、専門的でない語彙や複雑でない文法構造を用いて、自分の意見を含めて、あらすじをまとめたり、基本的な内容を報告したりすることができる。	自分の専門分野であれば、メールやファックス、ビジネス文書を、感情の度合いをある程度含め、かつ用途に合った適切な文体で、書くことができる。	自分の専門分野や関心のある事柄であれば、複雑な内容を含む報告書や論文などを、原因や結果、仮定的な状況も考慮しつつ、明瞭かつ詳細な文章で書くことができる。
	書くこと	単語のつづりを1文字ずつ発音されれば、聞いてそのとおりに書くことができる。また書いてあるものを写すことができる。	自分について基本的な情報(名前、住所、家族など)を辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	簡単な語や基礎的な表現を用いて、メッセージカード(誕生日カードなど)や身近な事柄についての短いメモなどを書く。	趣味や好き嫌いについて複数の文を用いて、簡単な語や基礎的な表現を使って書くことができる。	文と文を and, but, because などの簡単な接続詞でつなげるような書き方であれば、基礎的・具体的な語彙、簡単な句や文を使った簡単な英語で、日記や写真、事物の説明文などのまとまりのある文章を書くことができる。	聞いたり読んだりした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。	身近な状況で使われる語彙・文法を用いれば、筋道を立てて、作業の手順などを示す説明文を書くことができる。	物事の順序に従って、旅行記や自分史、身近なエピソードなどの物語文を、いくつかの段落で書くことができる。また、近況を詳しく伝える個人的な手紙を書くことができる。	そのトピックについて何か自分が知っていれば、多くの情報源から統合して情報や議論を整理しながら、それに対する自分の考えの根拠を示しつつ、ある程度の結束性のあるエッセイやレポートなどを、幅広い語彙や複雑な文構造をある程度使って、書くことができる。	感情や体裁の微妙なニュアンスを表現するのであれば、重要点や補足事項の詳細を適切に強調しながら、筋道だった議論を展開しつつ、明瞭で結束性の高いエッセイやレポートなどを、幅広い語彙や複雑な文構造を用いて、書くことができる。

(g) 自主的・継続学習能力 (14) 生涯学習の基礎とスキル)

自主的、継続的に学習する能力

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
<b>好奇心</b>	問題となっているテーマを <u>深く</u> 探究し、 <u>強い</u> 興味を示すことで、そのテーマに十分に目を開き、 <u>ほとんど知られていない</u> 情報を生み出す。	問題となっているテーマを <u>深く</u> 探究し、興味を示すことで、そのテーマへの洞察や情報を生み出す。	問題となっているテーマを <u>ある程度の深さ</u> をもって探究し、それに <u>軽い</u> 興味を示すことで、時々、そのテーマへの洞察や情報を生み出す。	問題となっているテーマを <u>浅いレベル</u> で探究し、それに <u>低い</u> 興味しか示さず、きわめて基礎的な事実をこえた洞察や情報をほとんど生み出さない。
<b>自発性(Initiative)</b> 自分で発想し行動する意欲 <b>自立性(Independence)</b> 自分で自分自身をコントロールできる。  社会で自立して生きて行くためには、授業でならう以上の知識や経験を身に付ける必要があるが、そのための「学び」の機会を自発的に作り出し、これらの知識・経験を修得している。	正規の授業で要求されたこと以外のことも学ぼうとする興味を持ち、その <u>機会を作り出して実践し、豊かに展開</u> している。 その中で知識、スキル、能力や経験を <u>自立的に修得</u> している。 (3との違いは、「3レベルのことを興味を持って豊かに展開している」こと、および知識と経験を同時に求めていること、にある)	正規の授業で要求されたことを超えて <u>学ぶための機会を見つけ</u> 、これにより充実した知識を追求する、とともに/あるいは、積極的に <u>自立的な学びを経験</u> している。	正規の授業で要求されたことを超えて、 <u>学ぶための機会を見つけ</u> 、授業で習った以上の知識を追求する、とともに/あるいは、 <u>自立的な学びを経験</u> することに <u>興味を示している</u> 。	正規の授業で要求されたことの上を考え、 <u>知識を自立的に追求</u> することに <u>興味を示している</u> 。
<b>省察(学びの振り返り)</b>  自分の成長のために必要な方針を、過去の学び・経験を再検討することから抽出する。	以前の学び(授業内・外での過去の経験)を <u>深く再検討</u> することで、長期間にわたる成長(知識を増やし、人間的成長・成熟をとげる)のために、学びや日々の生活をどのように行っていけばよいのか、に関する <u>自分の方針が、根本的に変化したことを認識</u> している。	以前の学び(授業内・外での過去の経験)を <u>深く再検討</u> することで、学びや日々の生活の中での出来事が、自分の成長にとって <u>どのような意味をもっているか、を十分明確にしたり</u> 、これらに関する以前より <u>広い見方</u> を示している。	以前の学び(授業内・外での過去の経験)を <u>ある程度の深さ</u> で再検討することで、学びや日々の生活の中での出来事が、自分の成長にとって <u>どのような意味をもっているか、を多少明確にしたり</u> 、これらに関する以前より <u>いくらか広い見方</u> を示している。	以前の学び(授業内・外での過去の経験)を <u>浅いレベル</u> で再検討しているが、学びや日々の生活の中での出来事が、自分の成長にとって <u>どのような意味をもっているか</u> を明確にしたり、これらについて以前より <u>広い見方</u> を示したり <u>することはない</u> 。
<b>転移</b>  新たな状況を理解し、その中で行動できるようにするために、これまでの学習経験を省察して得た知識・スキルを新たな状況に応用する。	以前の学習を <u>しっかりと参照</u> し、そこから得られた知識やスキルを、新たな状況に <u>革新的(新しい、創造的)なやりかた</u> で <u>応用</u> し、その状況を理解し、その中で行動できる。	以前の学習を参照し、そこから得られた知識やスキルを、新たな状況に応用し、その状況を理解し、その中で行動できる。	以前の学習を参照し、そこから得られた知識やスキルを、新たな状況を理解し、その中で行動できるように <u>応用しようとする</u> 。	以前の学習を <u>曖昧に参照</u> するものの、そこから得られた知識やスキルを、新たな状況を理解し、その中で行動できるように <u>応用することはない</u> 。

## (h) プロジェクト・マネジメント能力

与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力、 計画の進捗を把握し、必要に応じて計画を修正する能力

プロジェクト・マネジメントの手法を専門として学ぶのではなく、PBL等のプロジェクトを計画的に推進するために必要となる最低限のスキルをまとめてある。

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
<b>目標設定</b> 高い目標を設定し、その内容を理解している	与えられた問題を理解し、それを高いレベルで解決するプロジェクトの範囲、コスト、納期の目標を設定できる。	与えられた問題を理解し、それを解決するプロジェクトの範囲、コスト、納期の目標を設定できる。	過去の例を参考にプロジェクトの目標を定量的に設定できる。(範囲、コスト、納期については過去の例を参考に決定)	プロジェクトを定性的に定義できる。(範囲、コスト、納期についての検討はないか、あいまいである)
<b>スコープマネジメント</b> 目標を満足する実施計画を立て、これをやるべき事に整理し、チームで分担、協力し実施することができる 問題が生じたら作業計画を修正し、目標を達成できる。	2に加え プロジェクトの目標を確実に達成できると思われる実施計画を立てることができる。 仕事の途中で作業内容の追加、削除、変更が必要になった場合は、目標達成できるように作業を修正できる。	2に加え プロジェクトの目標を考慮に入れて実施計画を立てることができる。 仕事の途中で作業内容の追加、削除、変更が必要になった場合は、作業を修正できる	1に加え 洗い出した作業を分類し、図表にまとめることができる。 作業実施に関し、最も良い役割分担を考え、表にまとめることができる	プロジェクトの目標を達成するための計画が与えられたとき、グループのメンバーとして、やるべき作業の洗い出しができる。
<b>タイムマネジメント</b> 仕事を計画的に実施できる	2に加え 工程計画と実際にずれができた場合は、原因を調べ、ずれが少なくなるように工夫し、納期が守れるように計画を修正することができる。	2に加え 工程計画と実際にずれができた場合は、原因を調べ、計画を修正することができる。	実施する作業の順番や役割を決め工程計画を作ることができる。	大雑把な工程計画を作ることができる。
<b>コストマネジメント</b> コストを計画的に管理できる	2に加え コスト計画と実際にずれができた場合は、原因を調べ、ずれが少なくなるように工夫し、予算が守れるように計画を修正することができる。	2に加え コスト計画と実際にずれができた場合は、原因を調べ、計画を修正することができる。	実施する作業の内容を決め、これに基づいてコスト計画を作ることができる。	大雑把なコスト計画を作ることができる。

(芝浦工業大学 中学校高等学校 芝生祭プロジェクトマネジメント教育 ルーブリック (案) を参考にして作成)

(i) チーム活動能力 (⑨ チームワーク)

チーム内での自分の役割や責任を理解し、チームの目的を達成するための仕事ができる能力 (チーム内での建設的な議論の進め方や、好ましい人間関係・雰囲気作り)

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
<b>チームの話し合いへの貢献</b> (メンバーシップ) 議論を前進させるような、長所を明確にした提案の提出	代替的な考えや提案の長所を明確にすることで、チームが前に進むのを助ける。	他者の考えに基づいた代替的な解決法や行動計画を <u>提案</u> する。	グループの作業を前進させるために新たな <u>示唆</u> を与える。	考えを共有するが、グループの作業を前進させるような提案はしない。
<b>他のメンバーがチームに貢献することの促進</b> (メンバーシップ) メンバーの意見の建設的な統合	誰かが参加していない時には、そのことに気付き参加を促すとともに、他のメンバーの貢献を建設的に積み重ねたり統合したりすることによって、チームのメンバーが話し合いに貢献するのを促進する、というやり方で、彼らをチームの活動に参加させる。	他のメンバーの <u>貢献を建設的に積み重ねたり統合したり</u> することによって、チームのメンバーが話し合いに貢献するのを促進する、というやり方で、彼らをチームの活動に参加させる。	他のメンバーの <u>見方について言いなおし、さらに(もしくは)それを明確にするような質問を行う</u> ことによって、チームのメンバーが話し合いに貢献するのを促進する、というやり方で、彼らをチームの活動に参加させる。	<u>発言の順番を回したり、他者の意見を遮ることなく傾聴</u> することで、チームのメンバーをチームの活動に参加させる。
<b>建設的なチームの雰囲気の醸成</b> (リーダーシップ)	以下全てを行うことで、建設的なチームの雰囲気を支える。 ・礼儀正しく建設的なコミュニケーションを行うことで、チームのメンバーを丁重に扱う。 ・チームやその作業に対する肯定的な態度を伝えるため、肯定的な話し方や書き方の調子、表情、および(もしくは)ボディランゲージを用いる。 ・課題の重要さや、それを遂行するチームの能力に対する自信を表明することで、チームメートを動機づける。 ・チームのメンバーに対して、支援および(もしくは)励ましを与える。	以下のうちの <u>3つ</u> を行うことで、建設的なチームの雰囲気を支える。 ・礼儀正しく建設的なコミュニケーションを行うことで、チームのメンバーを丁重に扱う。 ・チームやその作業に対する肯定的な態度を伝えるため、肯定的な話し方や書き方の調子、表情、および(もしくは)ボディランゲージを用いる。 ・課題の重要さや、それを遂行するチームの能力に対する自信を表明することで、チームメートを動機づける。 ・チームのメンバーに対して、支援および(もしくは)励ましを与える。	以下のうちの <u>2つ</u> を行うことで、建設的なチームの雰囲気を支える。 ・礼儀正しく建設的なコミュニケーションを行うことで、チームのメンバーを丁重に扱う。 ・チームやその作業に対する肯定的な態度を伝えるため、肯定的な話し方や書き方の調子、表情、および(もしくは)ボディランゲージを用いる。 ・課題の重要さや、それを遂行するチームの能力に対する自信を表明することで、チームメートを動機づける。 ・チームのメンバーに対して、支援および(もしくは)励ましを与える。	以下のうちの <u>1つ</u> を行うことで、建設的なチームの雰囲気を支える。 礼儀正しく建設的なコミュニケーションを行うことで、チームのメンバーを丁重に扱う。 チームやその作業に対する肯定的な態度を伝えるため、肯定的な話し方や書き方の調子、表情、および(もしくは)ボディランゲージを用いる。 課題の重要さや、それを遂行するチームの能力に対する自信を表明することで、チームメートを動機づける。 チームのメンバーに対して、支援および(もしくは)励ましを与える。
<b>[チーム内での] 対立への対応</b> (リーダーシップ)	破壊的な対立に直接言及し、チーム全体の結びつきや将来的な効果を高めるやりかたでその対立に取り組み、解決することを建設的に助ける。	<u>対立を認識し、把握した上で、それに取り組み</u> 続ける。	<u>対立から離れて、共通の基盤や当座の課題に目を向け</u> 直す。	代替的な視点、考え、意見を <u>受動的に受け入れる</u> 。

(i) チーム活動能力（多様性、多専門性への対応）

多様性（性別、年齢、専門、職業、国籍、文化、宗教、・・・）を持ったメンバーで構成され、多専門領域にわたる学際的なチームで、下記を行なうことで、チームの目的を達成するための仕事ができる能力

- メンバーの多様性を活用して、均一なバックグラウンドのメンバーでは生まれないアイデアを創出
- 他専門の特徴を理解し、これにより他分野の専門家の知識・能力・スキルを問題解決に活用する

保有する知識・能力・スキル	4	3	2	1
多様性の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な背景を持った人々との有意義な意見交換を通して、自分とは異なる多様な他者の考え方、自分が持っていない知識・経験を、<u>問題解決に使える形で理解</u>している。</li> <li>・ これらの多様な考え方・知識・経験を、自分の考え・知識・経験と<u>有機的に統合</u>し、複合的な問題の解決に<u>適用</u>している。</li> <li>・ これにより、多様性を活用しなかった場合に比べ、<u>はるかに質の高い成果</u>を得ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な背景を持った人々との意見交換を通して、自分とは異なる多様な他者の考え方、自分が持っていない知識・経験を、<u>十分理解</u>している。</li> <li>・ これらと自分の考え・知識・経験の中から、<u>使えるものを選択</u>し、問題解決に<u>用</u>いている。</li> <li>・ これにより、多様性を活用しなかった場合に比べ、<u>質の高い成果</u>を得ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な背景を持った人々との意見交換を通して、自分とは異なる多様な他者の考え方、自分が持っていない知識・経験を、<u>部分的に理解</u>している。</li> <li>・ これらと自分の考え・知識・経験の中から、<u>一部</u>を問題解決に用いている。</li> <li>・ これにより、多様性を活用しなかった場合に比べ、<u>少し質の高い成果</u>を得ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な背景を持った人々との意見交換において、多様な他者の考え方、自分が持っていない知識・経験を、「自分とは異なる」という<u>違和感</u>を持って、<u>表面的にとらえている</u>。</li> <li>・ 他者の考え方、知識、経験を<u>問題解決に用いる方法がわからない</u>。</li> </ul>
他分野の人との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の専門以外の分野に<u>好奇心と深い関心</u>を持ち、その専門と自分の専門との関係、その専門の特徴、その専門のできる事、などを<u>体系的に理解</u>している。</li> <li>・ これをもとに、その専門の人に今のプロジェクトの目標達成のために<u>してもらいたいことをまとめ、依頼</u>している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の専門以外の分野に<u>深い関心</u>を持ち、<u>積極的に理解</u>しようとした。</li> <li>・ その専門の人との話し合いで、プロジェクトの目標達成のための仕事の<u>分担を決めた</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の専門以外の分野に関心を持っている。</li> <li>・ その専門の人とプロジェクトの目標達成のために、どのように協働すればよいかについて<u>話し合った</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の専門以外の分野に関心を持たず、理解しようとしなかった。</li> <li>・ 他分野の人とプロジェクトの目標達成の為にどのように協働すればよいかわからない。</li> </ul>